

地域未来創造会議（水俣・芦北地域）結果概要

- 1 日 時 令和7年3月24日（月） 15：30～17：10
- 2 場 所 芦北地域振興局 3階大会議室
- 3 出席者
 - （1）市町村長
高岡水俣市長、竹崎芦北町長、山田津奈木町長
 - （2）県議会議員（オブザーバー）
吉永議員、荒川議員
 - （3）県
[本庁]
木村知事、富永企画振興部長、阿南市町村課長 他
[地域振興局]
門崎地域振興局長、安倍地域振興局次長、松永総務振興課長 他
- 4 議事内容
 - （1）知事から ～水俣・芦北地域の未来への想い～
 - （2）市町村長から
 - （3）意見交換
- 5 会議資料 別添のとおり

結果概要

会議では、有害鳥獣対策、海の再生・水産資源の回復、県立高校の魅力化、県境を越えた医療連携、公共交通の現状等に関することが話し合われた。主な意見は次のとおり。

1 有害鳥獣対策

- ・駆除しても頭数増に追い付かない。食物連鎖の頂点がないことが増加の要因の一つだが、ジビエ活用についても現実的ではなく、駆除後の埋設場所や焼却施設の不足など深刻な問題となっている。

2 海の再生・水産資源の回復

- ・水産資源の減少や稼ぎの問題で海の仕事をしていた人がどんどん陸に上がっている。観光うたせ船も継続は困難になった。形を変えた保存法の検討が必要。
- ・あさは、今後漁獲量10トンまでもっていきたい。そうすると1,000万円ぐらいの稼ぎにはなる。

3 県立高校の魅力化

- ・水俣高校への入学者の確保等のため、市も独自に頑張っている。県における今後のあり方検討の際には、そういった努力もしっかり評価してほしい。
- ・芦北高校に対する町の支援を決定する際に異論もあったが、高校は地域の拠点として必要であり、教育は町そのものである。

4 県境を越えた医療連携

- ・出水市や伊佐市等を念頭に県境を越えて連携した医療圏の構築が必要ではないか。

5 公共交通の現状

- ・各市町それぞれで、どう公共交通網の再編をやっていくかがまず最優先。
- ・交通事業者への補助金負担が毎年かなり過大になっており、特に山間部などは、利用者が使いたいときに使えるような仕組みを構築することが必要。
- ・新水俣駅や水俣駅から観光地等への二次アクセスが課題と考えている。
- ・スクールバスの空き時間なども活用している。
- ・タクシーが不足しており、地域経済にも影響する。海外の先進事例を参考に、安心して利用できる民間の登録車両等の利活用を進める必要がある。
- ・利用者の利便性向上のため、各市町の枠を越えた相互乗り入れなど広域的な連携も必要ではないか。

今回の会議内容を基に、次の事項について引き続き県と市町村で事務的に今後の展開等を検討していくこととなった。

- (1) 有害鳥獣被害の対策について、全県的な課題であり、各市町の実態を踏まえ検討
- (2) 海の再生については、担い手の確保をはじめ持続的な水産業となるための取組みを推進
- (3) 県立高校について、再編ありきではなく地域に選ばれるための魅力化を推進
- (4) 県境を越えた医療連携について、県の枠を越えて相互に補完しあいながら連携し、住民にとって理想的な医療体制を検討
- (5) 公共交通の仕組みづくりについて、地域全体で課題を共有しながら中山間地にもあったあり方を検討

(以上)